

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス Happy Learning			
○保護者評価実施期間	令和8年 7月 1日		～	令和8年 7月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	令和8年 7月 15日		～	令和8年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 8月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育内容を日々職員同士で相談しながら内容を決定し、取り組みに対する児童の反応を見て各職員にフィードバックして次回に活かせるようにしている。	・他授業所のSNSなどをチェックし、活動内容の参考にしている。 ・利用児童の感想を聞いたり、意見を聞いて療育内容へ活かしている。	実施結果などもお互いにフィードバックして内容をより良いものにしていく。 指導員個々のレベルアップを計り、同時に、療育のレベルアップをしていけるようにしていく。
2	自宅及び学童への送迎サービスを実施している。	・できるだけ保護者の希望を聞いてより良いサービスを提供できるように適宜保護者と相談をしながら柔軟な対応を行っている。	保護者の体調不良などで保護者が送迎を行えない場合、その都度相談して送迎サービスを利用できるように柔軟な対応を行っていく。
3	児童発達支援と放課後等デイサービスの垣根なく異年齢の他児との交流を持つことができる。	・学年に差があっても発達段階に応じたコミュニケーションを取れるように指導員が介入している。 ・上級生が下級生のお世話をすることで自己有用感が感じられるように指導員の手伝いなどをお願いすることもある	集団におけるダイナミクスが適切に発揮されるように指導員は日々研鑽していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の広さが限定的なため、スペースを使う取り組みに制限ができる。	・施設の広さは変えられないため、現状工夫しながら取り組みを考えている。 ・利用児童が多い場合はスペースが限られるため1人あたりに使用できる範囲が決まっている。	・大きく活動を行う場合は公園の広いスペースを活用する ・相談室のスペースを活用して、児童を発達段階ごとに分けて時には個別療育と小集団療育を同時進行で行い、職員配置なども工夫して取り組んでいく。
2	発達段階に差が大きくみられる場合があり、思うように集団活動を実施できない時がある。	・発達段階ごとに分けてもスペースが足りず思うように実施ができない時がある。 ・指導員の視野が足りずに前準備、実施能力が足りていない時がある。	・療育を行う際の前準備を細かく設定し、あらかじめ共有しておくことで実施時に臨機応変に対応出来るようにする必要がある。
3	外部との交流が少ない	・外部施設などへ向かう取り組みを特に行っていないため、児童の外部との交流が少なくなっている。 ・日々が施設内で完結しており、利用を曜日ごとに分けているため一緒に過ごす児童も同じなことが多い。	・外部施設との交流を検討する ・利用曜日などの変更や整理を適宜必要であれば行い、様々な児童との交流が持てるように工夫していく。